

令和 5 年 4 月 14 日

教 育 長 様

(※受付番号 )

研究コース
B グループ研究B
校 園 コー ド (代 表 者 校 園 の 市 費 コー ド)
561155

代 表 者	校 園 名 :	大 阪 市 立 本 田 小 学 校
	校 園 長 名 :	今 村 友 美
	電 話 :	6581-1531
	事 務 職 員 名 :	喜 連 尋 滋
申 請 者	校 園 名 :	大 阪 市 立 本 田 小 学 校
	職 名 ・ 名 前 :	教 諭 信 貴 香 乃
	電 話 :	6581-1531

## 令和5年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	B グループ研究B	研究年数	新規研究 (1年目)
2	研究テーマ	「主体的・対話的で深い学び」の視点からエージェンシーを育む ～自己調整学習の充実をめざして～			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を項立てして記載してください。</p> <p>VUCAと呼ばれる予測困難な時代に入力する中で、求められる教育の姿、目指すべき子どもの学びの姿も変化している。「次は何をするのだろうか」と全て教師の指示を仰ぐような、受動的な姿ではなく、目標達成に向けて「こうしてみたい、ああしてみよう」と自分たちで考え行動する、主体的な学びの姿を大切にしていきたい。そこで必要になるのが、自ら社会に対してポジティブな影響を与えるために目標を設定し、振り返りながら責任ある行動をとる能力「エージェンシー」である。以上を踏まえ、次の2点を本研究の目的とする。</p> <p>1、自身の学習過程に能動的に関与する学習を指す「自己調整学習」の充実につながる授業デザインと評価の開発 2、教師である私たちが、学び続け、自らの社会に影響を与えられるようなエージェンシーを育み発揮するための研究のあり方の探究</p>			
4	研究内容	<p>(1)研究内容の詳細 ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>「今のままではいけない」そんな漠然とした課題意識を持ちながらも、「自分自身がどう変わり、授業をどう変えることが良いのか」と悩んでいる20代の教員を中心として2022年8月から自主研究会を立ち上げた。白井俊著「OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来」の読書会を皮切りに、週に一度オンラインで1時間程度の学習会を重ねてきた。私たちの学びや授業を評価し、大阪市の先生方に研究発表・報告することで、学びをより価値のあるものにし、教師である私たち自身がエージェンシーを発揮していきたいと考えた。そこで以下の3つの柱で研究を推進する。</p> <p>①エージェンシーを育む授業デザインの考案 「エージェンシー」を育むためには、子ども一人一人が学習動機をもち、協働しながら自己調整学習を行う必要がある。そのため、本研究では子どもたちに動機づけする一つ的手段として「自己決定理論」を援用することにする。また、メタ認知や協働を促す手立てとして「可視化」及び「メタ認知的問いかけ」を研究のキーワードとして設定した。「エージェンシー」を育て発揮するために、学びの宛先としての具体的他者を設定し、自己調整学習を授業デザインに取り入れ考案する。またこれらは、教科・領域に固有のものではなく、学びの本質であると考え、さまざまな教科・領域でどのような実践ができるのか研究を進めていく。</p> <p>②学術的な客観的評価と価値付け 質的研究者である立命館大学野原博人教授との年間を通じた共同研究を実施し、自己調整学習が子どもたちにどのような影響を与えることができたのかを学術的に定義し、評価するための評価方法の確立である。「Pintrich&amp;Groot (1990) による「Motivated Strategies for Learning (MSLQ)」を援用し、小学生の自己調整学習に即したアンケート項目を作成する。</p> <p>③教師のエージェンシーの育成 教師自身がTeamsで日々の実践を振り返り、メンバー同士で心理的安全性を担保した状態で批判的な意見を伝え合う。そうすることで、特別な研究授業だけでなく日々の実践の中でも自己調整学習のサイクルを回していく。そうして、サイクルを回す回数を増やし、学びの質の保証を目指す。</p> <p>(2)継続研究 [2年目] ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>(3)継続研究 [3年目]</p>			

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>4月【企画会】見込まれる成果とその検証方法についての検討 年間計画の立案 【研修会】自己調整学習についての読書会 児童アンケート、教員アンケートの作成 発話プロトコル法についての勉強会</p> <p>5月【研修会】エージェンシーを育む学びのデザインの考案・検討・実践報告（前期）</p> <p>6月【研修会】エージェンシーを育む学びのデザインの考案・検討・実践報告（前期） 【奈良女子大学附属小学校 学習研究集会 参加】</p> <p>7月【研修会】エージェンシーを育む学びのデザインの考案・検討・実践報告（前期）</p> <p>8月【研修会】前期の実践のまとめ作成 エージェンシーを育む学びのデザインの考案・検討（後期）</p> <p>9月【研修会】前期の実践のまとめ作成 エージェンシーを育む学びのデザインの考案・検討（後期） 【日本理科教育学会全国大会（高知大学朝倉キャンパス）参加】</p> <p>10月【研修会】エージェンシーを育む学びのデザインの考案・検討（後期）</p> <p>11月【がんばる先生支援 研究発表会】公開授業・研究協議 指導助言 立命館大学 野原博人教授 ↑エージェンシーを育む学びのデザインの実践報告①として 【奈良女子大学附属小学校 次世代教育授業セミナー 参加】 【岐阜大学教育学部附属小中学校 教育研究会 参加】</p> <p>12月【研修会】児童アンケートの実施・分析 研究会参加者アンケートの実施・分析</p> <p>1月【研修会】がんばる先生支援報告書作成</p> <p>2月【がんばる先生支援 研究発表会】公開授業・研究協議 ↑エージェンシーを育む学びのデザインの実践報告②として 【奈良女子大学附属小学校 学習研究発表会 参加】 【お茶の水女子大学附属小学校 研究発表会 参加】 【研修会】がんばる先生支援報告書作成・提出</p> <p>3月【研修会】研究のまとめ作成 【研修会】次年度へむけて、本年度の成果と課題の共通理解</p>
		<p>出張を伴う研究会への参加、外部講師を招聘する研修会の実施等、経費執行が必要な取組を記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良女子大学附属小学校研究会参加</li> <li>・理科教育学会全国大会高知大学朝倉キャンパス参加</li> <li>・お茶の水女子大学附属小学校研究会参加</li> <li>・岐阜大学教育学部附属小中学校研究会参加</li> <li>・授業研究会の指導助言 講師：立命館大学 野原博人教授 年1回実施</li> </ul>
6	見込まれる成果とその検証方法	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;"> <input type="checkbox"/> 変更しない。 <input type="checkbox"/> 変更する。             </div> <div style="flex: 2; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">理由</div> </div> <p>(2)大阪市教育振興基本計画に示されている、「<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>」および、「<u>教員の資質や指導力の向上</u>」について見込まれる成果を端的に記載し、その成果について客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。（いずれかに☑を入れてください）</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>児童の資質・能力（学びに向かう人間性）が涵養される。低学年では自分自身の動機を大切に学習することで、学習に対して肯定的な感情を持つことができる。また、高学年では、学びに向かう人間性である「粘り強く学習に取り組む態度」や「自らの学習を調整しようとする態度」及び問題解決能力を涵養することができる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>主体的な学習に取り組んだ単元で児童へのアンケート項目「楽しみながら勉強することができた（低学年）」「うまくいかなかったとき、先生や友達に相談したり、やり方を変えてみたりした（高学年）」に対する肯定的な回答を、70%以上にする。</p> <p>【見込まれる成果2】</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>研究発表会参加者が「目指すべき教育の姿とはどのようなものか」について考えられるような研究会を開催し、「教材」や「理論」在りきではなく、まず初めに「子ども」在りきで授業をするとはどういうことなのかについて研究会のメンバーと共に考え、自分の実践とつなげることができると考える。</p> <p>《検証方法》</p> <p>研究発表会参加者にアンケートを実施し、項目「自分自身の教育を見つめ直し、どのような教育が良い教育なのかを考えるきっかけになった」「自己調整学習の考え方が子どもの主体的な学びを保証するヒントになった」「動機を大切に学習が大切だと感じた」の割合を85%以上にする。</p>

6	見込まれる成果とその検証方法	<p><b>【見込まれる成果3】</b></p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>自己調整学習の予見・遂行・自己省察の3つの段階において、どの学年でどのような方略を行ったかの一覧や、「Pintrich &amp; Groot(1990)による「Motivated Strategies for Learning (MSLQ)」を援用し、本研究会が志向する小学生を対象とした自己調整学習に即したアンケート項目を作成することで、参加者が主体的な学びにつながる自己調整学習についてイメージをもち活用することができると考える。</p> <p>《検証方法》</p> <p>研究発表会参加者にアンケートを実施し、項目「自己調整学習に即したアンケート項目が授業実践において役に立ちそうだ」「自己調整学習の方略一覧が役に立ちそうだ」「自己調整学習がどのようなものか簡単なイメージがもてた」と答える割合を85%にする。</p>						
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 <b>報告書提出日（令和6年2月22日）までに必ず行ってください。</b></p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="411 949 1402 1016"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 5 年 11 月 30 日</td> <td>場所</td> <td>大阪市立本田小学校</td> </tr> </table> <p>◆waku<sup>x2</sup>.com-bee掲載による共有【必須】</p> <p>○掲載の日程（予定）</p> <table border="1" data-bbox="411 1095 963 1162"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 6 年 2 月 22 日</td> </tr> </table> <p>◆他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和 5 年 11 月 30 日	場所	大阪市立本田小学校	日程	令和 6 年 2 月 22 日
日程	令和 5 年 11 月 30 日	場所	大阪市立本田小学校					
日程	令和 6 年 2 月 22 日							
8	代表校園長のコメント	<p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>OECDが発表したラーニングコンパスには、well-beingの山を登ろうとする生徒として「エージェンシー」が描かれている。子どもが変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り責任をもって行動する能力としての「エージェンシー」は、一人で成し遂げられるものではない。本研究の価値ある部分は、子どもに「エージェンシー」を発揮させるために、専門的サポーターとして教師自らが「エージェンシー」を発揮させる必要性を追究すべきとしているところである。その具体的な手法として、自己調整学習を取り上げているところも、評価すべき部分である。自己調整学習を適切に推進することによって、教師とともに子どもの「エージェンシー」が発揮されることを、大きく期待する。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>						